



Dying Gasp

この章では、シスコの産業用イーサネット シリーズ スイッチの **Dying-Gasp** 機能について説明します。

Dying Gasp は、高性能 WAN インターフェイスカード (HWIC) のハードウェアコンポーネント上にあり、ギガビットイーサネット インターフェイスをサポートしています。ネットワークデバイスは、グレースフルシャットダウンと **dying-gasp** メッセージの生成を可能にする、コンデンサでの一時的なバックアップ電源に依存しています。この一時的な電源は、これらのタスクを実行するために、10 ~ 20 ミリ秒持続するように設計されています。

Dying-Gasp パケットは、**dying-gasp** コンフィギュレーション コマンドを使用してホストを設定したときに作成されます。**show dying-gasp packets** コマンドを実行すると、作成されたパケットに関する詳細情報が表示されます。

SNMP Dying Gasp メッセージの SNMP サーバは、**snmp-server host** コンフィギュレーション コマンドを使用して指定します。**syslog Dying Gasp** メッセージを送信する syslog サーバは、**logging host hostname-or-ipaddress transport udp** コマンドを使用して指定します。イーサネット OAM Dying Gasp パケットは、イーサネット OAM がイネーブルになっているインターフェイス用に作成されます。

Dying Gasp パケットは、通知タイプごとに最大 5 台のサーバに送信できます。

Dying Gasp の設定の詳細については、次の URL にあるシステム管理ガイドの「**Configuring Dying Gasp**」の章を参照してください。

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/connectedgrid/cg-switch-sw-master/software/configuration/guide/sysmgmt/CGS_1000_Sysmgmt/cgs_dying_gasp.html

